

報 告 書

件名：令和3年度厚生労働科学研究費補助金（認知症政策研究事業）

「独居認知症高齢者等が安全・安心な暮らしを送れる環境づくりのための研究」
に関する研究支援

事業者：一般社団法人 人とまちづくり研究所

代表者：堀田聡子

研究概要：

事例調査（在宅高齢認知症独居・高齢認知症夫婦のみ世帯の暮らしの実態、探究型ケアの推進）に基づく教材開発を行い、主に地域包括支援センターを対象として、開発した教材の提供と学びの場とすることを目的として「地域包括支援センターのデザイン」ウェブサイトを構築した。

（ウェブサイトの趣旨説明：抜粋）

地域包括ケアシステムの中核機関として位置づけられる地域包括支援センターには、いま、地域共生社会の実現に向けて大きな期待が寄せられています。

地域包括支援センターで活躍する皆さんが、「いい仕事ができているなあ」と思えるかどうかは、地域で暮らす一人ひとりの普段の暮らしが「幸せだなあ」と思うことに直結します。

地域包括支援センターのスタッフ、広く対人支援に携わる方々が楽しく活動できること、ケアするーケアされる関係を超えて共に豊かな暮らしを創り出していけることを目指して、このプロジェクトでは、「出会い直し」の方法をデザインしました。

当事者との「出会い方」と「かかわりの質」は、地域包括支援センターの基本4業務の根幹です。まず自分を知り、その人と、その人が暮らす地域と出会い直す。これを助けるアセスメントシートも作りました。

実は、こうした試みは一人暮らしやご夫婦のみで暮らす認知症のある高齢者やそのまわりの方々に、暮らしのリアルを教えて頂いたことをきっかけとしています。

ご本人は、ご家族は、そして専門職は認知症についてどんなイメージを持っていたのか。認知機能の低下や認知症の診断を受けたことで、じぶんや目の前の人のことを、まず「認知症の」〇〇さんを見ていなかったか。「認知症が進むと本人ではわからない」

と思い込んでいなかったか。そのことで自分の思い、目の前の人の願いに蓋をしていなかったでしょうか。

このサイトでは、プロジェクトのもとになった全国各地の認知症のある高齢者の11の事例もご紹介しています。それぞれの当事者をめぐる豊かな関係性と知恵をご覧くとともに、もしこの方がうちの地域に住んでいたら？とぜひ思いめぐらせてみてください。

出会い直しのデザインに興味をお持ちの方々とともに、地域を越えて事例検討をしたり、こんなことあったらいいな！を話し合ったり、ツールや学びのあり方もよりよいものにしていただけることを願っています。

(開発ストーリー)

独居認知症高齢者等（認知症者のみで構成される単独世帯や夫婦のみ世帯高齢者）が安全・安心な暮らしを送れる環境づくりにかかわる研究(※1)の中で「地域包括支援センターのデザイン」は生まれました。

※1 2019-2021 年度厚生労働科学研究費補助金（認知症政策研究事業）「独居認知症高齢者等が安全・安心な暮らしを送れる環境づくりのための研究（研究代表者・粟田圭一）」

STORY 01

認知症のある高齢者の暮らしの事例調査と分析

高齢認知症独居・高齢認知症夫婦のみ世帯の自宅での暮らし、住み替えと環境調整に関する事例調査とその結果に基づくケースを検討しました（2019年度）。認知症のある高齢者12人・11世帯にかかわるご本人とご家族、専門職等合計40人程度のインタビューに基づいて、居住環境、住まい方の工夫や暮らしの知恵、認知機能の低下がみられるようになってからの変化と周囲の関わり、生活パターンと支援ネットワークの変化、さらに在宅継続要因と考えられること、在宅限界点や住み替えプロセスとそこでの意思決定のあり方等に係る考察をまとめました。

STORY 02

本人の声、聴こえていますか

事例検討を経て、地域包括支援センターが包括的・継続的ケアマネジメント支援業務の一環として、地域における認知症のイメージを認知症のある方とともに変革していくこと、「共感」を鍵として広く当事者とともによりよいケアの形を探究することを目指したいという声をあげたのが福岡県大牟田市中央地区地域包括支援センターの皆さんで

す。

まず、居宅介護支援事業所のケアマネジャーとともにケアプランを振り返ると、本人の想いや姿が必ずしも見えず、アセスメントにおいても家族の声に頼りがちになっていること、また専門職であっても「認知症が進むと本人ではわからない」と時に思い込んでしまったり、できないことや課題に焦点を当てすぎてしまう傾向があることがわかりました。

こうした状況を改善し、納得感を持って楽しくはたらくために、まずは現状をチェックしてみませんか？

STORY 03

地域包括支援センタースタッフの研修

自分と／地域と／本人と出会い直す

地域包括支援センターのスタッフと学びを重ねました。

専門職がその職種や立場の鎧を脱いで自らの共感される「ゆるかわ」ポイントを探る研修、一人の生活者の視点からまちあるきを通じて地域の資源を（再）発見する研修、当事者とやりとりをする際の肯定のコミュニケーションについて学ぶ研修を実施しました。

また、認知症当事者が講師となる認知症サポーター養成講座も開催しました。

STORY 04

新アセスメントシート「やりとり手帳」の開発・改訂・試用

一連の学びのなかで、本人の自らとの出会い直し、当事者とスタッフがアセスメントされる人とする人としてではなく、人と人として出会えることを助けるために、新たなアセスメントシートを開発することになりました。

地域包括支援センターのスタッフとの対話を通じて案を作成、試用・改訂を繰り返し「できないことばかりが書かれていると本人も希望を言いにくくなるのではないか」「対話しながら本人が自ら書くことによって、本人が自らの気持ちを整理でき、本人と専門職のコミュニケーションを深めることができるのではないか」などの意見を受け、新アセスメントシート「やりとり手帳」が生まれました。

ウェブサイトの情報：

URL <https://preview.studio.site/live/p6aoJBAJqR/>

ウェブサイトの構成は次ページの通り

地域包括支援センターのデザイン webページ サイトマップ

